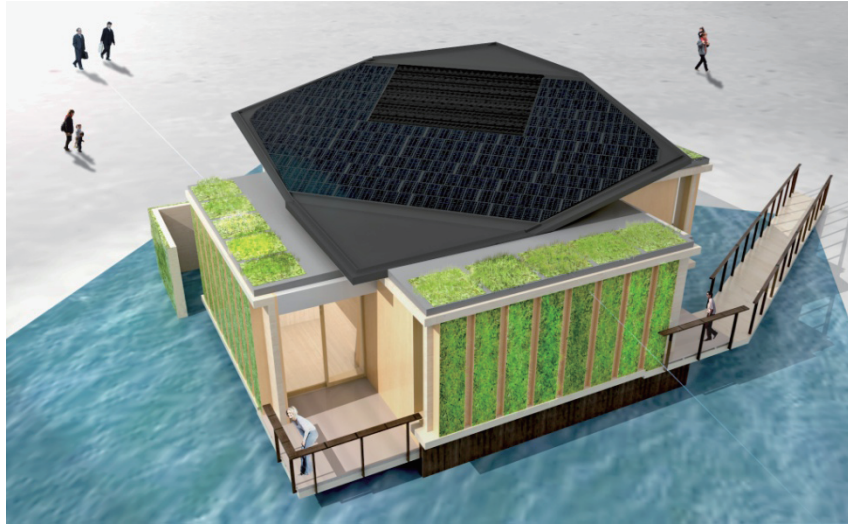


事業名	慶應型共進化住宅 Keio Co-Evolving House	代表団体	慶應義塾大学
		プロジェクトリーダー	池田 靖史

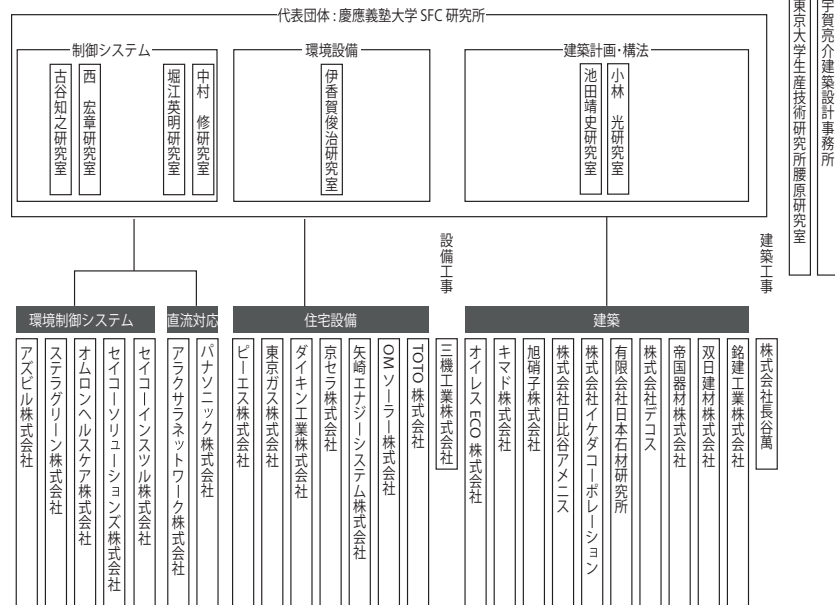


○環境負荷の低減、健康維持・増進、快適で安全な社会生活の実現という3つの課題の高い次元での達成

- ・環境負荷の低減  
住宅の寿命全体でのCO<sub>2</sub>収支をマイナスにする
- ・健康維持・増進  
自然素材の建材を使用し、居住空間内で体感される熱環境や視覚的効果などの点から人間の健康を維持・増進
- ・快適で安全な社会生活の実現  
パッシブな自然エネルギー利用を重視した自立可能で災害耐力のあるシステムを採用し、暮らしの快適性・安全性を守る

○人々と都市環境をインタラクティブに繋ぐ“共進化”住宅

- ・集合・連携することにより自ら良好な都市環境を創造する  
可能な限り緑化された壁面は都市の温熱環境の改善に貢献するだけでなく、隣接する空間に対しても環境を向上させる
- ・ライフスタイルに呼応する環境づくり  
センシング技術を環境制御システムに組み合わせることで使い手の生活スタイルを学習・反映する、実感のあるエコライフを提供
- ・住まい手とともに進化する  
新しい構法を導入することで様々なライフスタイルにプランを対応させることが可能になり、使い手とともに進化する住宅となる



○地球的な課題である環境問題の解決におけるアジア地域への貢献

- ・アジアの環境都市開発を意識した革新的モデルの提示  
高密度都市、水辺環境、インフラ未整備地域などの都市環境開発への提案として水辺利用が可能な水上住居の技術を開発する
- ・季節差の大きなアジア諸国への気候に配慮  
多様な地域差に対するオープンで自立性の高い環境制御システム
- ・高度情報技術の住宅分野への応用技術を創出する産学連携組織の構築  
国内だけでなくアジアにおける生活環境の改善の方策を追求し、結果として日本の環境技術産業の市場開拓にも繋がることを目指す。